

# かがやき



大久保小学校 学校だよりNo.10

令和6年7月5日

文責 黒田 優一



## 平和集会（佐世保空襲の日）

6月29日は「佐世保空襲の日」です。今から79年前の昭和20年（1945年）6月28日午後11時58分、もうすぐ6月29日になろうとする夜中に、佐世保の空に多くの爆撃機が飛んできました。空襲警報が断続して鳴り響くなか、その爆撃機からたくさんの焼夷弾が、人が住んでいる、この佐世保の街に落とされたのです。12,037戸の家が全焼し、多くの人が傷つき、1,242人の人が亡くなったのです。

戦争は、人を傷つけ、人のいのちを奪うものです。絶対にしてはいけません。でも、今でも世界中のどこかで、戦争が起きています。戦争がない世界にするために、私たちには何ができるのでしょうか。戦争がない世界にするために、私たちは何をしなければならないのでしょうか。

大久保小学校では、6月28日（金）の1校時に平和集会を行いました。平和集会では、まず校長の話として、前述の内容を話しました。次に平和教育担当の濱村教諭が、79年前にこの佐世保の街で何が起こったのか、スライドを見せたり、佐世保空襲の「火の雨」という話をしたりしながら、より具体的に子どもたちに伝えました。子どもたちの感想を少し紹介します。

- ぼくは、せんそうをしません。どうしてかという、せんそうをすると、ほかのひとのいのちがきずつくからです。
- いのちは一つしかない、なくなったらもどってこないから、せんそうはしちやだめだなと思いました。
- わたしは、「火の雨」の空襲で亡くなった人が1,200にもものぼってびっくりしました。大人になったらみんなにせんそうのこわさをしっかりつたえて、せんそうのない未来にしたいです。
- ぼくが考えたことは、なぜせんそうをするのかです。そんなことしなくても、みんなをしあわせにするためのことをすればいいのに。
- 平和集会でわかったことがありました。それは、今の日常が十分幸せということがよくわかりました。
- 平和集会で一番心に残ったのは、教頭先生のおばあちゃんの話です。教頭先生のおばあちゃんは、赤ちゃんのためにがんばって守ろうとしたことが、とてもすごかったなと思いました。

8月6日の広島原爆の日、8月9日の長崎原爆の日である「県民祈りの日」、そして8月15日の終戦の日と、平和の大切さを考える日が今後も続きます。ぜひご家庭でも、戦争がない世の中にするために私たちに今何ができるのか、一緒に考える機会を作っていただき、戦争の悲惨さや平和の尊さについて、お話しいただければと思います。

### 「いのちかがやく強調月間」のご協力、ありがとうございました。

6月は「いのちかがやく強調月間」でした。期間中、「いのちを見つめる集会」「交通安全教室」「集団下校」「道徳授業公開」など、たくさんの保護者や地域の皆様にご来校いただき、子どもたちの学ぶ姿を見ていただきました。また、「学校開放週間」においては、受付等において多くの保護者の皆様にご協力いただきました。本当にありがとうございました。

「いのちかがやく強調月間」は終わりますが、いのちの教育は、年間をとおして行います。これからも本校では、子どもたちが自他のいのちを大切に、一人一人が輝けるよう、学校教育目標「秩序と活気ある子どもの育成」の具現化を目指して教育活動に取り組んでいきます。